

授業科目名		母性看護学臨地実習	担当教員	◎久保幸代、恵美須文枝、 下睦子、岩谷香
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：臨地実習 45時間	

【授業概要】

妊娠中から出産退院後、地域で生活する母児とその家族に対して、母児の健康管理や出産・育児準備に必要な支援を学ぶ。

【授業目的・目標】

1. 妊娠中の健康管理行動として、妊婦が必要とする看護援助がどのようなことか、妊婦の日常生活の体験を通して理解できる。
2. 出産準備行動としてどのような支援が必要か、集団指導場面やピア交流の場面を通して理解できる。
3. 出産退院後の地域での生活で、母児の健康管理や育児のために、どのような支援が必要か、家庭訪問や育児支援活動を通して理解できる。

【履修条件】

母性看護学を修得していること。

【授業計画】

- 1日目 産科外来や禁煙外来での活動見学
- 2日目 NICU見学・退院母児の支援の見学
- 3日目 母科学級や妊産婦のピア活動見学
- 4日目 家庭訪問や地域での子育て支援見学
- 5日目 学習のまとめ

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 森恵美他著（2016）系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論，医学書院。
2. 村本淳子他編著（2009）母性看護学1 妊娠・分娩，医歯薬出版株式会社。
3. 今津ひとみ他編著（2011）母性看護学2 産褥・新生児，医歯薬出版株式会社。
4. 新道幸恵他編集（2012）新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護，メヂカルフレンド社。
5. 大平光子他編集（2014）母性看護学Ⅱマタニティサイクル，南江堂。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価：80%、カンファレンスプレゼンテーション：20%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：関心のある妊娠中から育児期までの健康課題と必要な支援について調べ明確にしておく。

事後学習：実習を通しての学びを振り返り、課題レポートを記述する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは記述内容を評価し、返却する。

【備考】

ウィメンズヘルス看護学概論、周産期看護援助論、ウィメンズヘルス看護学臨地実習、母性看護学と関連が深く、今までの学習内容を関連させ、実習で活用していく。

領域選択「母性看護学」での学習内容を踏まえて、実際の周産期看護がどのように行われているか、外来で妊婦に提供されている看護活動を理解する。